

事務事業チェックシート

事務事業No 567 事業名 学校図書充実事業（中学校）

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	2	社会を生き抜く子供たちの学力の育成
施策	1	確かな学力を育む教育の推進
取組方針	1	教育課程の充実と学力の向上

事業種別	継続	
事業期間	H14 ~	
事業実施の根拠法令	学校図書館法、学校図書館図書標準	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	教育政策課	南 敏博(435-1135)
関連課	学校教育課	

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		中学校費	
	目		学校管理費	
	大事業		中学校管理事業	
事項		学校図書充実事業（中学校）		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	学校図書を整備し、児童・生徒の利用に供することによって、学校教育課程の展開に寄与するとともに、児童・生徒の健全な教養を育成することを目的とする。	左記の目的を達成するために、各学校の規模を勘案し図書購入費を当課から配分し、各学校において適宜、必要図書の選定を行い予算執行を行っている。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		19校分、合計 8,761千円の予算措置を行っている。	19校分、合計 8,761千円の予算措置を行う。	19校分、合計 8,060千円の予算措置を行う。	19校分、合計 7,818千円の予算措置を行う。	19校分、合計 7,818千円の予算措置を行う。

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	8,761	8,643	8,761	8,727	8,060	7,438	7,818		7,818	
伸び率 (%)	-	-	0.0%	1.0%	▲8.0%	▲14.8%	▲3.0%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	1,428	1,365	1,365	1,302	1,302	1,409	1,485	1,485	
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	1,428	1,365	1,365	1,302	1,302	1,409	1,485	1,485	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源（税等）	8,761	8,623	8,761	8,727	8,060	7,438	7,818		7,818	
所要人数（人）	正規職員	0.19	0.18	0.18	0.17	0.17	0.18	0.19	0.19	
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	
主な予算内訳	図書購入費 7,818千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		目標値	実績値	達成度 (%)	目標値	実績値
活動指標 執行率（購入額／予算額）	%	目標値	8,761	8,761	8,060	7,818
		実績値	8,643	8,727	7,438	
		達成度 (%)	99.6%	99.6%	92.2%	
成果指標 充足率（蔵書冊数／標準冊数） ※標準冊数は「学校図書館図書標準」（平成5年文部省設定）に基づく。	%	目標値	236,880	231,520	227,840	222,400
		実績値	291,265	293,847	290,311	
		達成度 (%)	123.0%	126.9%	127.4%	
		目標値				
		実績値				
		達成度 (%)				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	成果指標において、全体では100%を超えているものの、学校別に見た場合、100%未満の学校もあり、また、古くなった本は毎年廃棄していくため、予算措置をしないと廃棄分で蔵書数がマイナスとなるので、毎年度の予算措置は必要である。
見直し・改善内容	予算配分の見直しにより、達成率の低い学校の底上げを図る。